

東日本大震災10年復興祈念行事 コロナ禍により1年遅れ

被災地視察と慰霊の旅・報告

2022年6月2日～3日

慰霊(高田松原津波復興祈念公園・釜石祈りのパーク) 視察(陸前高田市・大槌町)

6月2日午後2時、奥州市観光を終えた5名と新江刺駅で合流の1名を加えた全6名が、永山光悦岩手県庁課長(前岩手県大阪事務所勤務)の運転するレンタカーにて、一路陸前高田市に向けて出発した。三陸沿岸は雨の予報であったが、車外行動時にはほとんど雨に遭わずじまいで大いに助かった。

視察行程では、6月2日午後4時から陸前高田市の戸羽太市長と、翌日の朝9時から大槌町の平野公三町長と面談した。両自治体ともハード面での復興はほぼ終え、三陸沿岸道路の完成が、復興に良い影響を与えている。いろんな課題がある中で、一番の課題は次の津波への対応で、防災計画の見直しも必要、市町村は大変苦勞している。海洋環境の異変にコロナ、ウクライナ問題が重なって、人口減防止の切り札となる基幹産業の復興、地域経済振興は遅れている。「10年一区切り、具体的支援はやめても良いが、東日本大震災そのものを忘れられてしまうと、ちょっとどうかな(戸羽市長)」「大阪方面からたくさんの派遣職員の応援をいただき、新たな人的ネットワークに感謝(平野町長)」の言葉が印象に残った。

慰霊行程は、市長との面談後「高田松原津波復興祈念公園」に移動し、中央の献花台に花束と黙禱を捧げた。花束には「関西岩手県人会一同」の名札を立て、全会員の慰霊の気持ちを込めた。また、「震災のすさまじさ」を想起させる「東日本大震災津波伝承館」を見学し、その夜は釜石市内に宿泊した。翌日は平野町長との面談後、「釜石鶴住居復興スタジアム(ラグビーワールドカップ2019)」に近い「釜石祈りの



高田松原津波復興祈念公園 献花台にて慰霊

パーク」に立寄り、前日と同様に献花・黙禱し慰霊の旅を終えた。

帰りは旧菊池家住宅と佐々木喜善記念館のある「遠野市伝承館」や「宮沢賢治記念館」に立寄り、前者では「おいしい蕎麦」を食し、後者では「賢治さんゆかりの品々」の展示を見て回り、その後新花巻駅から帰路に着いた。本行程でレンタカー手配・運転、自治体との調整、宿泊予約等すべてにわたり、永山光悦氏のお世話になった。深く御礼申し上げます。(参加者：金野 衛、柏山 喬、深田 稔、北原慎庸・孝子、渡邊菜実) 深田記

奥州市魅力探訪の旅 アテルイ・モレの会と 関西3団体共同企画

奥州市訪問の報告

2022年6月7日～2日

阿豆流為・母禮の慰霊碑(羽黒山)参拝、えさむ藤原の郷観光

昨年、清水寺で奥州市の小沢昌記市長の「奥州市の魅力紹介」講演受け、関西、京都、奥州会の3岩手県人会と関西アテルイ・モレの会共催で『奥州市訪問と被災地視察』旅行を企画し、これに県人会8名、歴史愛好者9名、岩手県職員2名が応募して6月1日より1泊2日+被災地視察1日の旅行会となりました。

奥州市職員2名が駅頭で、埋蔵文化財調査センターで岩手県商工労働観光部の出迎えを受け、感激。学芸員からアテルイ・モレの時代をビデオで丁寧な解説を受け、広大な胆沢城のジオラマを見て、アテルイ達もこれにはさぞ驚いて戦意を失ったことだろうの所感。センター脇の胆沢城跡を見学。羽黒山の「阿豆流為・母禮慰霊碑」を参拝し、ここで記念撮影。

延暦二十一年に蝦夷軍500人が征夷代將軍坂上田村麻呂公に投降、アテルイとモレのみが平安京へ連行され、結果杜山で斬首。この故事に今現在進行中のロシア軍のウクライナ侵攻への思いが重なりました。

史跡見学終了後、温泉宿「ひめかゆ」目掛けて一路西へ。残雪の焼石岳が遠望され、広大な胆沢平野の目の当たりにして、豊かな土地だなあと実感しました。

交流会はアテルイ顕彰会の安彦公一副会長、奥州市の小野寺隆夫副市長より歓迎の挨拶、関西アテルイ・モレの会会長の和賀亮太郎、関西奥州会副会長の佐藤耕吉より訪問の挨拶があり、市会議長の菅原由和様の乾杯で、総勢32名の宴が始まりました。この旅行のきっかけを作って頂いた小沢市長さ

んも交流会に駆け付けてくれ、感謝。宴も盛んとなったところで参加者の阿部眞三さんから「さんさしぐれ」。返歌として、アテレイ顕彰会の皆さんが「ああ、日高見」の合唱。終宴に際して和賀より「2024年は建碑30周年を迎えます」と案内があり、お開きとなりました。

翌6月2日、胆沢ダム、徳水園、えさし藤原の郷を巡り、参加者14名で昼食を頂きながら今回の旅行の感想を伺ったところ概ね満足されたようで、企画者としては安堵の胸を撫でました。ここで被災地視察旅行に出るグループがあり、旅行会はここで解散となりました。

関西アテレイ・モレの会としては6年前の福島県三春町に次いで2回目の旅行会でしたが、ご参加頂き誠にありがとうございました。(2022年6月 和賀亮太郎)



阿豆流為・母禮の慰霊碑(羽黒山) 前で記念撮影

**奈良県開催の
全国知事会議に先駆け**

**達増拓哉岩手県知事 京都清水寺表敬訪問
2022年7月28日(水) 関西5団体が同席**

奈良県での全国知事会議(7月28日)に出席の前日、達増拓哉岩手県知事はわずかな時間を見つけて、清水寺に立ち寄り森清範貫主と面談され、「アテレイ・モレの碑法要」や「南部風鈴祭り」で岩手県とご縁が深い清水寺に対し御礼を述べられた。当日は、関西5団体(南部風鈴を愛でる会、関西岩手県人会、京都岩手県人会、関西奥州会、アテレイ・モレの会)の幹部が同席した。(清水寺迎賓殿にて撮影、主演隆志氏提供)



達増知事と森清範貫主が面談



関西岩手5団体の幹部同席

**南部風鈴
を愛でる会**

**第13回風鈴祭り 京都清水寺 8月1日~31日
8月1日AM10時 風鈴法要&掛け初め式**

昨年と同様、8月1日の風鈴法要及び掛け初め式は、コロナ感染に配慮し規模を縮小して行われた。法要は10時より本堂内陣にて導師・森清範貫主および一山僧侶が読経のなか参列者一同がご焼香、その後岩手県大阪事務所の主演隆志次長の司会の下、森貫主および川静衛会長が挨拶され、参列者への謝辞と関係者へのねぎらいの言葉をかけられた。

10時20分より、本殿に至る回廊にて風鈴掛け初め式が、引き続き主演次長の司会の下、主賓7名(京都市立開晴小学生2名含む)により行われ、京都府知事、京都市長(代理)の祝辞および、菊池 哲岩手県副知事および開晴小中学校校長の挨拶があり、祝電披露および記念撮影で無事終了した。

なお、7月31日に風鈴飾り付け、8月31日に後片付けに、岩手県大阪事務所、京都岩手県人会、関西岩手県人会および南部風鈴を愛でる会が参加、「風鈴祭りは清水寺の夏の名物になった」と、清水寺の坂井輝久学芸員よりお礼が述べられた。



風鈴掛け初め式 菊池哲副知事、地元小学生が参列 岡豊氏提供

風鈴約500個に取り付けられた数々の願いを込めた短冊は、9月25日(日)、清水寺・忠僕茶屋前にて、京都仏教界、京都府神社庁共催の大護摩供法要においてお焚き上げされた。

(事務局F記)

**第11回 3県合同
納涼ビアパーティ**

**3年ぶりの開催 スーパードライ梅田
前代未聞のカラオケ禁止 2022年7月17日**

コロナ流行第7波が噂される最中、幹事県青森県人会のご尽力により、スーパードライ梅田にて開催されたビアパーティは、岩手県25名、3県人会合計で82名の出席者であった。過去と比べると2/3の出席率ではあったが、直前に3名の辞退者が出て、欠席理由に「コロナがまだ怖い」という方も少なから

ずおり、この時期としてはまずまずであったと思う。余興は会場側の規制で「楽器演奏」「踊り」などに限られたので、3県人会合同で初めて「マジシャン」を呼び楽しんだ他、三味線合奏(青森)、踊り・岸壁の母(秋田)そして岩手県の出し物は、岩手県大阪事務所の主演隆志次長による

「さんさ太鼓」演奏と緒方千穂子さんによる「サイレント・ミュージカル」が披露され喝采を浴びた。

会場には青森・秋田県人会の了解を得て、「震災11年の募金箱」を置かせてもらった。一切アナウンスしなかったが、募金箱を見つけた有志が浄財を入れてくださり感謝に堪えない。

久しぶりの懇親会に「楽しかったです」の声が多かったが、翌々日から全国的にコロナ感染者が過去最多を記録したのには、驚きかつ冷や汗をかいた。(事務局F記)



各県ごとに記念撮影 参加頂いた関西岩手県人会の皆さん

青年部始動
2020年6月発足

文楽鑑賞会 国立文楽劇場(大阪市中央区) 2022年6月15日
人形遣いの吉田玉輝さん(文楽研修第一期生)の特別解説

関西岩手県人会のみなさん、はじめまして。この度青年部の部長を拝命致しました澤口朋哉と申します。青年部では、有志によるインスタントなイベントの企画、運営と、若手会員の勧誘を通じて県人会の交流を活性化させていく事を目的に発足しました。



吉田玉輝こと佐々木幸雄氏

その活動の記念すべき第一回のイベントとして、会員である吉田玉輝(本名:佐々木幸雄)

さんが、国立文楽劇場にて公演される文楽の鑑賞会を、6月15日に実施してきました。鑑賞会には関西岩手県人会の方々以外からも、京都岩手県人会や近畿青森県人会、岩手県事務所の方々にもご参加頂き、総勢18名での鑑賞会になりました。

文楽をご存じない方に簡単にご説明すると、文楽は、日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。その成り立ちは江戸時代初期にさかのぼり、古くはあやつり人形、その後人形浄瑠璃と呼ばれています。竹本義太夫の義太夫節と近松門左衛門の作品により、人形浄瑠璃は大人気を獲得し全盛期を迎え、竹本座が創設されました。その後豊竹座をはじめいくつかの人形浄瑠璃座が盛衰を繰り返して、幕末、淡路の植村文楽軒が大阪ではじめて一座が最も有力で中心的な存在となり、やがて「文楽」が人形浄瑠璃の代名詞となり今日に至っています。

畑中あすみ氏(前大阪事務所主任) 近況報告

皆様、お変わりございませんでしょうか。昨年度まで大阪事務所でお世話になりました畑中です。事務所勤務時は大変お世話になりました、ありがとうございます。関西岩手県人会の皆様には、歓迎会のお花見から、夏の甲子園、京都清水寺での南部風鈴、宮沢賢治忌法要や阿豆流為・母禮の碑法要など、様々な場面で多くの貴重な経験をさせていただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

そちらでの日々がまだ昨日のこのように思い出されると

今回鑑賞した演目は、「菅原伝授手習鑑」、「義経千本桜」とならぶ義太夫浄瑠璃の三大傑作のひとつに数えられる「仮名手本忠臣蔵」でした。



人形浄瑠璃の事前講習

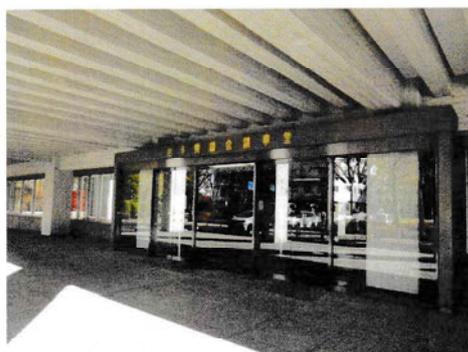
筆者の拙い文章力で当時の興奮を伝えるのはいささか不安ですが、物語には老若男女、更に様々な身分の人が人形となって登場するのですが、その一人一人が、まるで生きているかの



文楽鑑賞の皆さん 岡豊氏提供

ような滑らかさと迫力で見事に演じ分けられて表現されている事に驚嘆しました。物語の秀逸さと相まって、気づけばあっという間に終幕してしまいました。当日は、佐々木さんのご厚意で参加者向けに人形師が人形をどうやって動かしているかの特別解説もして頂きまして、とても有意義な鑑賞会となりました。青年部ではこうしたイベントを随時開催していきます。メール等で周知していきますので、みなさまのご参加を是非お待ちしております。(青年部部長 澤口朋哉 記)

ころですが、岩手での生活も半年が過ぎました。現在は議会事務局に勤務しており、これまでと違う環境ですが、日々努力しながら過ごしております。気候もこ



新職場 岩手県議会正面入り口

ちらはだいぶ寒くなり、個人的には10月半ばくらいから冬のコートとマフラーが手放せません。大阪での3年間はほぼ雪のない状況でしたので、久しぶりの寒さに順応できるか不安ですが、来年2月には八幡平市でスキーの冬季国体も開かれますので、ウィンタースポーツなども楽しみながら過ごして

いきたいと思います。コロナも落ち着きを見せたかのような矢先、また新たな波が懸念されているところです。皆様、くれぐれもご愛くださいませ。また皆様とお会いできる日を楽しみにしています。(畑中あすみ 2022年11月15日受領)

FDA試乗体験記 フジドリームエアラインズ

FDAより岩手県大阪事務所経由 無料チケットの抽選当選 ～5年ぶりにお盆の帰省・墓参り～ 横手辰美(栗石町出身)

この度、フジドリームエアラインズ (FDA) 試乗券を頂戴し、8月24日から29日まで、コロナで行けなかった実家の墓参りに5年ぶりに行ってまいりました。

この度の試乗で初めて神戸～花巻間にFDAが路線を設定していることを知りました。リーズナブルな料金設定と最新の機体で安く短時間で花巻まで行けることは、非常にありがたいと思っています。

さて、今回は、妻と二人で行く予定でしたが、直前になって妻の仕事の都合がつかなくなり、やむを得ず一人で岩手県栗石町の実家に向かうこととなりました。私は奈良県生駒市に住んでいますが、神戸空港へは近鉄線が阪神線に相互乗り入れしているため、電車の乗り換えなしで神戸三宮まで行くことができ神戸空港へのアクセスは非常に楽でした。

で広々していて、座席も本革の大きめのシートでゆったり快適に過ごすことができました。

エンブラエルの旅客機は、ダブルバブル構造という二つの円をずらして重ねたような構造になっていて、室内が広く天井も高いのが特徴なのだそう。このため、天井の荷物入れも大きめで使いやすくなっていました。

それにしても神戸から花巻まで約1時間20分と短時間のフライトで一気に1000kmを飛んでしまうのですからとても便利です。今までは新幹線で6時間もかけて帰っていたので本当に快適でした。

飛行中の機内は静かで、LCCとしては珍しく機内サービスとして飲み物とお菓子がサービスされて快適に過ごすことができました。飛行ルートは神戸から日本海に向けて飛び富山上空から新潟、山形を通るルートでしたが、あいにくの曇り空で地上の様子や白山、鳥海山などは見ることはできませんでした。

花巻空港は、ターミナルビルが、2009年に従来の西側から東側に移転して広くきれいになっていたので驚きました。花巻からの路線も札幌、名古屋、大阪、神戸、福岡と各地に飛んでいて便利になっています。

快適な空の旅を提供していただいたフジドリームエアラインズに感謝いたします。今回の試乗で、これからもFDAを利用したいと強く思いました。また、今回の試乗券を手配していただいた岩手県大阪事務所、関西岩手県人会に感謝申し上げます。(8月31日受領)



花巻行 エンブラエルERJ175

ことができました。花巻行の機体はブラジルのエンブラエルERJ175という機体で座席数は84席でした。外観は機体ごとに様々なカラーで塗装されており、今回試乗した機体はネイビーブルー(濃紺)でしたが、他にグリーンやローズピンク、バイオレットなどきれいな塗装の機体があるようです。客室内は4列座席

第104回全国高校野球選手権大会他

一関学院 8強を目指して 初戦突破!

京都国際戦 延長77回 サヨナラ勝ち

まずは自己紹介

スポーツ部会員の佐藤勇作でございます。スポーツと言えば、私は登山が趣味であり、若いころは奥徳高や八ヶ岳等も登っておりました。頂上までの道のりが困難であればあるほどチャレンジ心が沸き、上ったときの達成感や爽快感は何事にも代えがたいものです。

3人子供がおりますが、末っ子の次男は、夏の全国高校野球選手権大会に出場(控え投手としてベンチ入りするも出場機会に恵まれず1回戦で敗退)するなど野球漬けの毎日を過ごしてお



りました。私は応援するだけでしたが(笑)

分かり易く読みやすい記事を書いていければと思っておりますがなにぶん手探り状態のため、「読みづらい」、「何が言いたいかわからん」など思われるかもしれませんが、ご容赦いただければ幸いです。今後ともよろしくお願致します。

第104回全国高校野球選手権大会は8月6日～22日まで兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開催された。新型コロナウイルスの感染拡大予防のため開会式は規模を縮小して、各校の主将のみ(前回優勝校の智弁和歌山は副将も参加)となったが、夏の大会としては3年ぶりに入場制限のない有観客での開催と

吹奏楽による演奏が可能になり、選手はもちろん各校の応援にも力が入る。

岩手県代表は一関学院高等学校。岩手大会ノースードながら3-2で盛岡中央を下し、12年ぶり7度目の甲子園出場をつかんだ。

甲子園1回戦の相手は京都代表の京都国際高等学校で前回大会初出場ながら4強入りを果たした強豪校である。

大会初日の第3試合に1回戦を迎えた一関学院は7回終了時には5-1と20年ぶりの夏1勝に期待がかかる。8回、京都国際が反撃の2点を追加、9回にも2点を追加し5-5の同点に追いつかれるも延長11回にドラマが待っていた。1死2塁、

寺尾選手が決勝の中前打を打ちサヨナラ勝ちを取め、2002年の1回戦、樟南（鹿児島）1-0で勝利して以来20年ぶり初戦突破を果たした。

2回戦は大分代表の明豊高等学校との対戦。明豊は昨春の選抜大会準優勝校で、今夏の大大分大会では準決勝までの4試合をコールド勝利、決勝では大分舞鶴を12-3と圧倒した攻撃力を持つ強豪校である。

大会7日目の第1試合、点の取り合いとなり7回終了時には5-5の同点だったが9回、明豊の適時打と犠打で2点を勝ち越さ



入場行進 小松大樹主持
毎日新聞より



一関学院1回戦突破 スポーツ報知より

【もう一つの甲子園】“高校軟式”はこうも呼ばれた

その1、第67回全国高校軟式野球選手権 (8/24～ 兵庫：明石市・姫路市 16校)

東東北大会決勝に勝利(4-1 仙台商業)した専大北上は5年振り6回目の出場。津久見(大分)との初戦は5回に先制するも、8回2死満塁から四球押し出し・安打とエラー絡みで失点し逆転負け(1-5)に終わった。尚『甲子園』では仙台育英が優勝し大旗の“白河の関越え”が話題となったが、軟式での東北勢優勝は3度あり、初優勝は黒沢尻工業(S42・第12回、後の2回はS57・H22の能代)であったことや、念珠関(ズガセキ)・勿来関(コリセキ)と併せ奥州3古関が東北の玄関口であったことも頭の隅に…。

その2、第26回全国高校女子硬式野球選手権 (7/22～ 兵庫：丹波市 49校)

れそのまま勝敗が決した。一関学院は7度目の甲子園で、初の2勝目を狙っていたがあと一步届かなかった。

試合後、高橋滋監督は「選手は初舞台でも堂々と戦ってくれた。ベンチからたくましいなと思って見ていた。もう一つ勝てるまであと一步。チームにとっても、僕にとっても本当に勉強になる2試合だった。」とコメントしている。

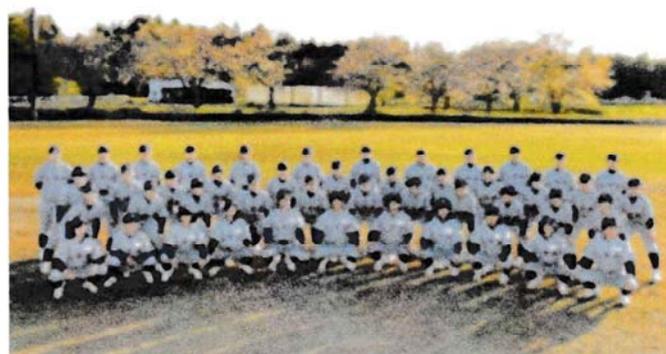
今の高校3年生は入学当時からコロナ禍の影響でイベント行事などが制限され、部活動も思うようにはいかなかっただろう。それでも3年ぶりの有観客での全国大会が選手や学校、保護者や応援しているすべての人達にとってかけがえのない思い出となり、次のステージへと進む一歩になったに違いない。

～創部3年目の夢舞台～ 花巻東女子硬式野球部

高校女子硬式野球の秋の王者を決める第13回全国高校女子硬式野球ユース大会が、8月22日から愛知県、岐阜県で開催され、花巻東高校の女子硬式野球部が、創部3年目で準優勝に輝いた。

大会を終え花巻市役所に表敬訪問した花巻東高校女子硬式野球部。今回の大会について武藤咲夢(さきむ)主将は「準優勝という悔しい結果に終わりましたが、笹間球場を貸していただいている花巻市や市民の皆さんに、強く応援してもらっていると感じられた大会でした」と振り返った。

今大会では準決勝までの3試合をサヨナラ勝ちで勝ち進むなど快進撃を見せた。チームは2023年3月に埼玉県などで開かれる全国大会で日本一を目指し、練習に励んでいくとのこと。岩手県人會も引き続き応援していきたい。佐藤勇作記



花巻東女子硬式野球部 (高校部活紹介より)

岩手から創部3年目の花巻東と同2年目の盛岡誠桜(女子硬式は東北で3校目)出場。2年連続2回目の花東は全国大会初勝利の勢いで3回戦まで勝ち上がったが強豪の京都両洋(ベスト4)に敗れ(0-7)、ベスト8に届かず。初出場の誠桜は残念ながら初戦敗退(1-8札幌新陽)。誠桜の初勝利と県勢の甲子園出場(決勝戦)は来年以降に持ち越しとなった。

その3、第53回日本少年野球選手権 (8/2～大阪：舞洲・万博球場他 48校) **次ページに再掲**

県勢として東北大会(北海道から関東地区16校)を初めて勝ち上がった岩手東ボーイズ(宮古市等沿岸中心の中学生硬式野球チーム)が全国大会に駒を進めた。初戦で加賀ボーイズ(北陸代表)に惜敗(2-3x)したものの、全国大会での互角の対戦は県勢少年野球のレベルの高さを示したものであると同時に、高校野球の更なる隆盛に繋がるものと確信した。

(スポーツ部会長 平野記 2022年10月3日受領)

リポピタンカップ第53回日本少年野球選手権大会(全国48チーム)が近畿各球場で開催された。

「岩手東ボーイズ」は宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村で、東日本大震災・台風10号を経験した子供達を中心に2018年に発足し、2022年7月9日、部員15名ながら東北支部大会で優勝し全国大会初出場を果たした。

9月2日(火)大阪万博公園野球場で、北陸代表加賀ボーイズと対戦した。終始押し気味に試合を進め、7回の最終回到2点先取し勝ったと思ったが、その裏逆転され2-3Xで敗れた。しかし、全国大会での互角の対戦は県勢少年野球のレベルの高さを示している。山田町出身の緒方千穂子さんの熱烈な応援が実らなかったのは残念であった。

前日、宿舎のホテルに伺い「震災に遭われた中学生が全国大会に出場したこと」に敬意を表し、県人会三役の申し合わせにより特別に激励金を手渡した。また、小林潤子氏(姫路市)も激励金の他、差し入れをして大変喜ばれた。

(公財)日本少年野球連盟(ボーイズリーグ)とは

公益財団法人日本少年野球連盟がスタートしたのは1970年(昭和45年)。最初はわずか28チームという一握りの小さな集団だったが、今では北から南まで全国5ブロック・41支部、小・中学生の部合わせて720チームを超える大きな組織に発展した。

活動内容は、春は2010年第40回記念大会から関東で、夏は従来どおり関西で毎年全国大会を開催するほか、各ブロックでの地区大会は、年間120大会にもおよんでいる。また中学生



岩手東ボーイズ対加賀ボーイズ(万博会場、緒方千穂子氏提供)

による世界少年野球大会、小学生、中学1年生によるカル・リブケン12歳以下世界大会などの海外交流、女子野球の東西対抗戦、シニアリーグとの交流戦などにも力を入れている。

岩手県における少年野球チーム(硬式)

現在、岩手東ボーイズ(通称本州東ボーイズ、5市町村に野田村が加入、2018年発足)の他に、釜石ボーイズ(岩手県沿岸部、2015年発足)、盛岡ボーイズ(2020年発足)、岩手中部ボーイズ(矢巾町、盛岡市、滝沢市、宮古市、2013年発足)、岩手ボーイズ(通称黒ベコボーイズ、一関市周辺、2008年発足)の5チームがある。(事務局F記)

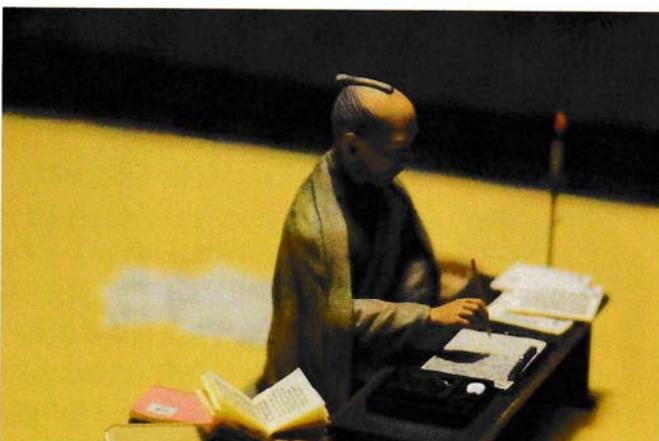
玉山金山の紹介
日本遺産指定・岩手県第1号

その10 仙台藩最後の金山奉行・松坂慶蔵の系譜

③松坂慶蔵の父と慶蔵の場内のうわさ 松坂家第28代当主 松坂定徳(本会顧問)

慶蔵の父・松坂大之助定弘は8代目の金山奉行(御金山下代筆頭役おかねやまげだいひつとうやく)であるが、今泉及川家の三男坊に生まれ、祖父・松坂源二左衛門定静の養嗣子(ようしし・家督相続人となる養子)に迎えられた。

今泉及川家は仙台藩直参足軽鉄砲隊組頭の家柄で、代々学問を好み、大之助の実父・及川順助や祖父・及川惣七郎は書



岩手の偉人・芦東山は24年間の塾居生活で、日本の刑法思想の根本原理を説いた「無形録」を完成 記念館所蔵(一関市大東町)

家として知られ、また、東磐井郡大川村(現一関市大東町洪民)の仙台藩儒学者・芦東山(あしとうざん)先生を自宅に招き、気仙地方の好学の志を集めて講座を開催し、学問の中心的存在として知られた家でもありました。

及川順助の長男・安之助は、家督を継ぎ組頭になり、次男は江戸に出て医学を学び東磐井郡大川村の医家・亀卦川家に懇請されて、名医・亀卦川子貫亡き後の亀卦川家の嗣子となり亀卦川秀伯と名乗った。また、京都・長崎に遊学し医学を修め、亀卦川家の医家の名声を更に高くし、医業は盛況を極め、仙台・盛岡からも受診に参集する繁盛を見せた。明治になると、仙台で亀卦川胃腸病院を開設し、医学の発展に寄与したという。医者であり経済学者・教育者で知られた小原磨溪先生は秀伯の子息であり、慶蔵定重とは従兄弟である。地元大東町の摺澤公園には立派な小原磨溪先生の顕彰碑が立っている。

三男は及川大之進であり、松坂家世襲の金山奉行を継承し、松坂大之進定弘と名乗った。

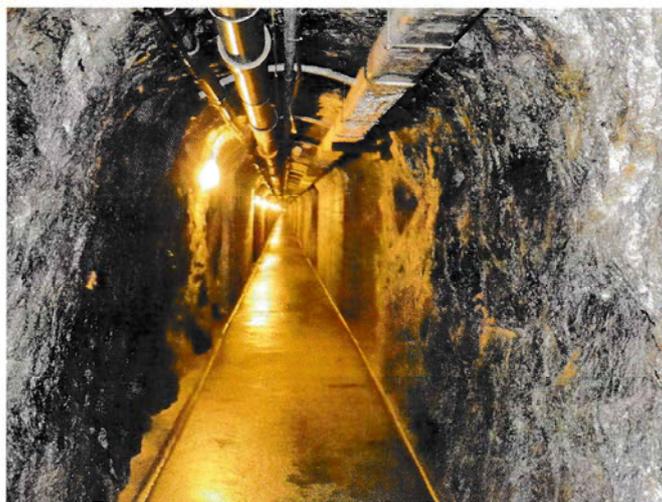
玉山金山は江戸中期から衰微に向かっていたが、仙台藩も資金不足であり、大之進は自力で再興しようと、伊達家から

先祖が拝領した今泉村裏町(現陸前高田市気仙町字裏町)の松坂屋敷を担保に多額の資金を投入し、試掘を試みたが良質な鉱脈に恵まれず、また、坑道内に湧き出る排水に苦慮したという。

大之助の名前は三菱鉱業株式会社が運営する細倉鉱山(現宮城県栗原市鶯沢)の細倉鉱山史にも見える。同鉱山の歴史は古く大同時代(806)の発見という。古くは金銀も産出したようであるが、江戸時代には鉛鉱山として繁栄し、鉱山内で通用する「細倉當百」という鉛銭を発行した。戦後まで日本一の鉛鉱山として稼働していたが、コスト面で輸入品に負けるとの経営判断で中断した。江戸後期には鉛の需要が多く、工員が増加すると食料の補充も管理上重要な課題となる。

栗原郡担当の御金山下代・狩野儀右衛門がコメの不足を手配するために大肝入(村方役人最上位の郡内統括者)に事情説明に出向いたが、病と称して面会できなかった。食料が切れては生産ができないので「食料の緊急手配をお願いしたい」と同役の筆頭役である松坂大之進定弘に訴えてきた。そこで大之進は大肝入に手紙を出し、「何処から何石集めて何時までに納められるか、至急返事をいただきたい」と催促し細倉鉱山の危機を救った、と三菱鉱業株式会社細倉鉱業所の「細倉鉱山史」に松坂大之助の功績が掲載されている。

曾祖父・松坂慶藏も年末には各鉱山の業績を纏めて仙台藩に報告していたという。文も立ち能書家でもあった慶藏に対して、「気仙の稗飯食いの書には敵わぬ」と陰口が聞こえた



細倉鉱山：日本を代表する鉛・亜鉛の鉱山
方鉛鉱：6~8面体結晶(宮城県栗原市)

が、「自分の始末もできない輩が及ばぬ妬みを言う」と相手にしなかったという。気仙地方は金山が多いが平地が少なく、農耕に適した土地が少ない故に雑穀を主食にして貧しい生活に耐えてきた経緯がある。故に松坂家の歴代当主は藩からの奉行手当金を気仙郡内の農地開発に投じて、農民の援助を続けてきたのである。「飢饉の時には気仙に行けば食べ物があ」と南部藩から藩境を超える侵入事件が多発している。かつて、大肝入も務めた松坂家の善政と言えるだろう。(終わり)(お詫び 前号をその8としましたがその9の誤りでした)

連載シリーズ NO8

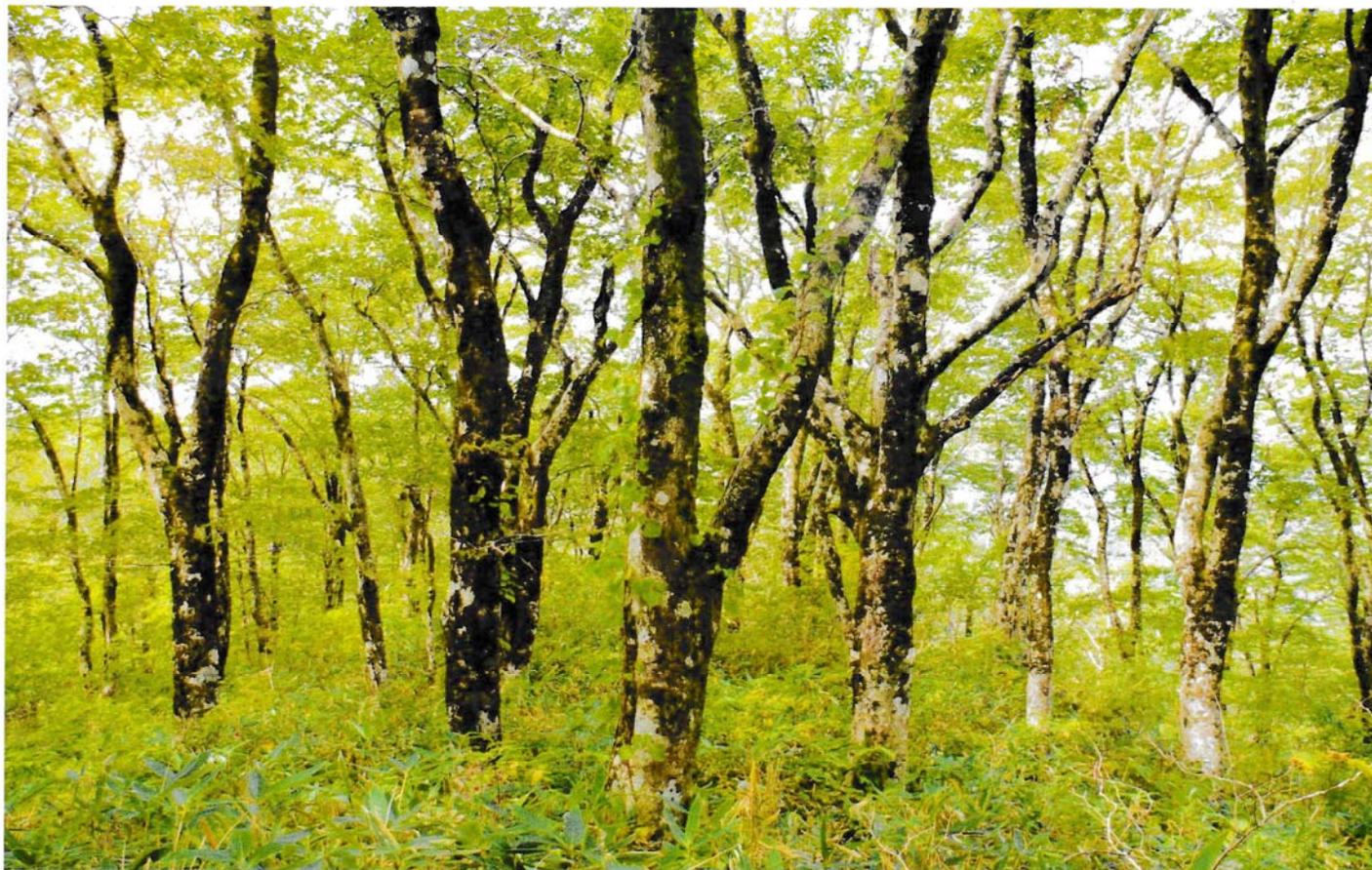
「イーハトーブの国から」

「鉄砲持たねてなめとこ山へ」

自然派カメラマン 多賀谷真吾(花巻市在住)

宮沢賢治さんは、よく山に登る人であった。岩手山には30回以上、早池峰も数知れず。もちろん、猫山、

南昌山、種山ヶ原などの里山も。「経埋ムベキ山」で知られる32の山々も忘れてはならない。



なめとこ山山頂のブナ林 (2022年9月8日 多賀谷真吾氏撮影)

そんな賢治さんの足跡をたどって、県内のあちらこちらの山に登るのも魅力的だ。

そこで、まだ暑気が残る初秋のある日、花巻西郊のなめとこ山に登ってきた。

花巻市内から大沢、鉛温泉を過ぎ、豊沢ダムから西和賀町へと向かう。西郊というより、完全な秘境だ。

さらに分岐の細い道に入る。うっそうとした森ばかりで、いかにも熊の住処といった気配だ。

登山口には、なんの目印もない。じつは、公には登山道はないとされている。それが証拠に、途中のなめとこ山展望箇所には、「登山道は整備されていけませんので登ることは出来ません」と書いてある。

しかし、である。「整備されていない」ということは、荒れているが、道はある、ということではないか。

関西人としての反骨精神がにわかにならわいてきた。迷わず行けよ、行けばわかるさ！

もちろん、無謀はいけない。地形図、GPS、食糧、簡易テントなど、必要な装備と下調べは完璧に。

車を止め、沢沿いの林道をたどる。川の水音が熊除けの鈴の音をかき消すので、大声で「森のくまさん」を歌いながら

歩いてゆく。

地形図にとらめっこして、見当をつけた地点から沢と別れて山体の急斜面にとりつく。たしかに、登山道というよりは踏み跡程度だ。薄暗い針葉樹林が明るい広葉樹林へと変わってゆく。

傾斜が緩んだころ、山頂が現れた。標高860メートル。いちめんブナの木々に覆われ、視界はない。

なんと山頂標識が4つもあった。1つで十分だが、熱心な賢治ファンらが次々に設置したのだろう。

下山路は周回の道をたどった。いたるところに気の早いキノコたちが、音楽隊よろしく顔を出している。

あやふやな道ではあったが、10キロ、4時間におよぶ「冒険」は終了。無事、車へ戻ることができた。

ところで、このなめとこ山だが、かつては賢治さんの想像力による架空の山で、実在しないとされた。

ところが、近年になって、古地図にこの山の記載が見つかった。そして、国土地理院発行の地形図に「ナメトコ山」の名が記載された。

賢治生誕100周年にあたる、1996年の話である。

(2022年11月15日受領)

事務局掲示板

<会員紹介>よろしくお願ひします。

- 2022年06月29日 平井奈央 盛岡市(現吹田市)
- 2022年07月21日 佐藤元彦 大阪市(現大阪市)
- 2022年11月16日 村上 梓 一関市(現大阪市)
- 2022年11月18日 坂本佳子 一関市(現大阪市)
- 2022年11月30日 白澤 希 盛岡市(現大阪市)

<その他の高校スポーツ・県勢の活躍>

- ・選抜高校野球…秋の高校野球東北大会で、県勢3校(花巻東・専大北上・盛岡大付)は何れも初戦敗退。春の選抜大会・甲子園出場は叶わず。
- ・高校ラグビー…昨年同様の北上勢どうしの対決は黒沢尻北が勝利し、2年連続7回目の花園出場(12/27・火、開幕)で3大会振りの初戦突破を目指す。
- ・高校駅伝…男子・一関学院(28年連続32回目)、女子・花巻東(16年振り18回目)が県大会で優勝し、夫々が「10位以内」と「30位以内」を目指し都大路を駆け抜ける(12/25・日)。
- ・高校女子サッカー…7年連続で全国大会に出場していた専大北上は東北大会3位決定戦に敗れ、残念ながら東北枠3校に入らず。来年正月は関西遠征ならず。(平野良夫記)

<今年度の主な行事実施状況>

事務局

- ・震災復興支援の街頭募金(3/6)は中止。震災11年法要は3/11に法善寺にて実施、有志参加。
- ・震災10年の被災地慰霊と視察旅行は6名で6月2日～3日実施。陸前高田市市長と大槌町長との面談録作成。

親睦部会

- ・新春懇親会(1/30)は2年続きで中止。
- ・かもめの会は昨年同様忘年会を実施(12/11)
- ・3県合同納涼ビアパーティ(7/17)実施(青森県幹事)

スポーツ部会

- ・高校女子サッカー(1/3)専大北上、選抜野球大会(3/18)、花巻東両校とも初戦敗退。
- ・夏の高校野球選手権大会(8/6～22)、一関学院が初戦突破も2回戦敗退。コロナ規制で十分な応援できず。イーハトーブ寄稿は部会員の持ち回り。
- ・親睦ゴルフ関係 春(5/12中止)、秋(9/28)、北東会(10/12)、参加者のいずれも実施。

広報部会

- ・イーハトーブ48号(3/2)、49号(6/8)、50号(12/14)を予定通り発行した。清水寺の風鈴祭り(8/1～31)で準備、後始末に参加した。

編集後記

2020年春から始まった新型コロナウイルス感染症は、3年目の2022年は第7波に達し、晩秋よりは第8波の到来が現実味を帯びてきた。今まで感染者数が少なかった岩手を含む東北等で過去最高を記録しており、集団免疫を獲得するまで沈静化しないのかもしれない。100年前のスペイン風邪は3年でほぼ終息したらしいが。

政府・行政は第7波が下火になったころから、コロナとの共存に方向転換した。65歳以上でワクチン接種を5回済ました人もいる。最近のコロナ死亡率は極端に低下したというデータがある。コロナを感染症法の2類(指定感染症)から季節性インフルエンザ並みの5類に分類する話も出てきている。いつまでも国費を使っているのは未来の財政負担が増すばかりだから、やむを得ない面はある。各自がコロナ対策の基本を守り自衛する必要があるだろう。

本誌の発行も50号に達した。いつもより原稿量が多く、賢治忌法要(9/21)やアテルイ・モレの碑法要(11/12)は次号回しとさせてもらった。また、ポイントを10号→9号に字を小さくした。見づらい点はご容赦を。(編集子)